

羽田空港へ進入時、TCAS RA が突然発生するケース

羽田空港における北風時の運用では、通常 RWY34L と RWY34R の同時平行進入方式が用いられます。好天時には「ILS X RWY34L APP & Highway Visual RWY34R APP」、それ以外の天候では「ILS Z RWY34L APP & ILS Z RWY34R APP」となります。同時平行進入方式が開始された 2010 年の D 滑走路増設以降、「TCAS RA が突然作動する」ことが稀に報告されていましたが、最近 1-2 年はその発生頻度が増えています。そこで、改めて概要をご紹介します。

<TCAS とは>

TCAS (Traffic Collision Avoidance System = 衝突防止装置) とは、航空機同士が空中で衝突することを防止することを目的として開発された、無線信号を利用した航空機専用の国際規格です。

TCAS がパイロットに対して与える情報は、他の航空機が接近していることを知らせる「TA (Traffic Advisory)」と、回避操作が必要な「RA (Resolution Advisory)」の 2 種類があり、衝突の約 40 秒前に「TA」、その後、約 25 秒前に「RA」が作動します。パイロットは TCAS 発生時に備えた訓練を実施しており、「RA」が発せられた場合、直ちに回避操作を実施しなければならないことがマニュアルに明記されています。また、TCAS システムは相互に無線信号を送受信しており、「TA」と「RA」は対象となる 2 機で同時作動するロジックになっています。

<羽田空港で発生する突然の「RA」>

同時平行進入方式が実施されている環境下で、航空機が正規の進路を飛行しているにも関わらず、TCAS RA が作動する旨の報告が増加しています。特に「ILS Z RWY34L APP & ILS Z RWY34R APP」運用時において多いですが、「ILS X RWY34L APP & Highway Visual RWY34R APP」運用時でも発生報告があります。

現時点における発生状況その他は、以下の通りです。

- 発生高度は 4,000ft 付近が比較的多い
- 「TA」の警告無しに突然、「RA」が発せられることがある
- 最終進入にいる 2 機のうち、1 機のみ「RA」が発せられるケースが多い
- 「RA」が発生する航空機の機種については特定されていない
- 木更津空港周辺や VFR 機との関連については不明

航空安全会議では、航空会社等で収集されたデータを基に、原因の速やかな解明と改善を関係各所へ働きかけていく予定です。

以上